



経済的に困難な子育て世帯の＜中高生の教育費負担＞実態調査

制服・指定品など入学時費用が高額化、家計圧迫する私費負担が明らかに

高1 保護者の約半数が「就学を続けられない可能性」など、切実な中高生や保護者の声も
～「授業費以外に対する経済的支援の拡充」や「購入品の選択肢の拡大」を文科省へ提言～

子ども支援の国際 NGO である公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(理事長:井田純一郎、本部:東京都千代田区、以下セーブ・ザ・チルドレン)は、経済的や生活上の困難がある世帯を対象に、中学・高校の入学に関わる費用の一部を支給する「子ども給付金 ～新入学サポート 2025～」を実施しました。この度、本給付金の利用世帯に対し、中学・高校の卒業・入学にかかった具体的な費用や、政府への要望に関するアンケート結果をまとめた報告書を、本日10月30日(木)に発表します。

2025年8月に実施した本調査では、卒業・入学にかかる費用が前年より高額化傾向にあり、授業料以外に家計を圧迫する私費負担の実態が浮き彫りとなりました。

さらに、高1 保護者の約半数が「経済的な理由により就学を続けられない可能性がある」と回答。中高生の約8割が「親がお金のやりくりで苦労していた」と回答し、学校教育に関わる家庭の経済的負担の深刻さが明らかになっています。

セーブ・ザ・チルドレンは、困難な状況にある子どもの“学ぶ権利”を保障するため、「授業料以外の費用に対する経済的支援の拡充」「学用品の備品化、購入品の選択肢の拡大」といった提言も報告書内にまとめ、文部科学省をはじめとした関係省庁に提出します。

■主な調査結果

有効回答数は、経済的に困難な状況にある、全国46都道府県の保護者(大半がひとり親世帯・女性)436人と、中高生148人。

- 卒業・新入学、入学後に就学のためにかかった費用について、「制服代」「卒業アルバム代」「教科書・教材費」「パソコン・タブレット代」で **2024年度調査より金額が上昇**。特に制服代は中1、高1どちらも約1万円上昇していた(表1)。
- パソコン・タブレットについて、高1は国公立で49.2%、私立で61.5%が、購入・リースが必要だったと回答(グラフ1)した。その際の補助金・助成金については、「あった」という回答が国公立で41.9%、私立で1.7%のみであった(グラフ2)。
- 高1の保護者に高校入学時の心配事をたずねたところ、「**経済的な理由により就学を続けられない可能性がある**」という回答が**45.0%**だった(グラフ3)。また、高校の就学継続に負担となっている費用をきいたところ、半数が「通学時の昼食費」「学校納付金」「制服・指定品の購入費」を選択。
- 中高生に中学や高校入学時の悩み事をたずねたところ、「**親がお金のやりくりで苦労していた**」という回答が**79.7%**で、「中学校の入学準備にお金がかかってしまったので、生活が更に苦しくなってしまった」という自由記述もあった。
- 卒業・新入学時に必要な支援は保護者、中高生どちらも約7割が「**制服・運動着などを安く買えるようにすること**」と回答し、**最多**(グラフ4)。ほかに、「学校に必要な教科書や副教材は学校が用意すること」「学校指定品をなくして、安い商品を選ぶようにすること」も半数以上が選択した。



<主な調査結果> (表・グラフ)

表1

Q. 卒業・新入学（入学式まで）にかかった費用について教えてください。(保護者、自由記述)

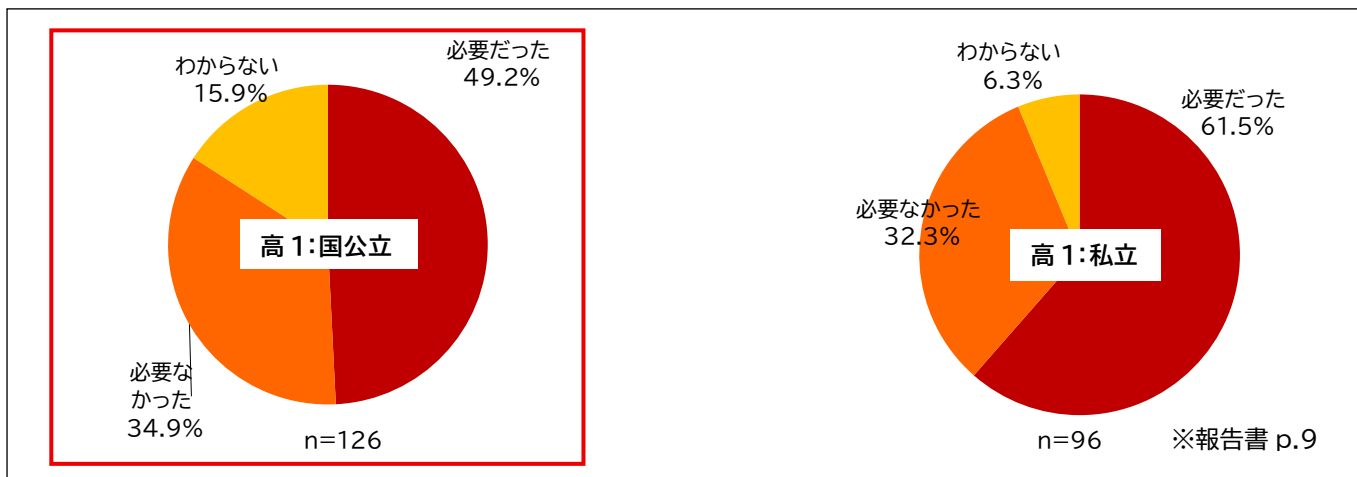
※n 数が 50 を超える費目のみ集計した。

費目	中 1			高 1		
	n数	平均額	(参考:24年調査時の平均額)	n数	平均額	(参考:24年調査時の平均額)
制服代	183	6万4,656円	5万6,331円	175	8万621円	7万615円
卒業アルバム代 (DVD代を含む)	100	1万3,682円	1万1,587円	66	1万2,641円	1万1,853円
教科書・教材費	79	1万6,840円	1万5,801円	184	3万6,404円	3万4,549円
パソコン・タブレット代	-	—	—	108	7万9,657円	7万732円

※報告書 p.6

グラフ1

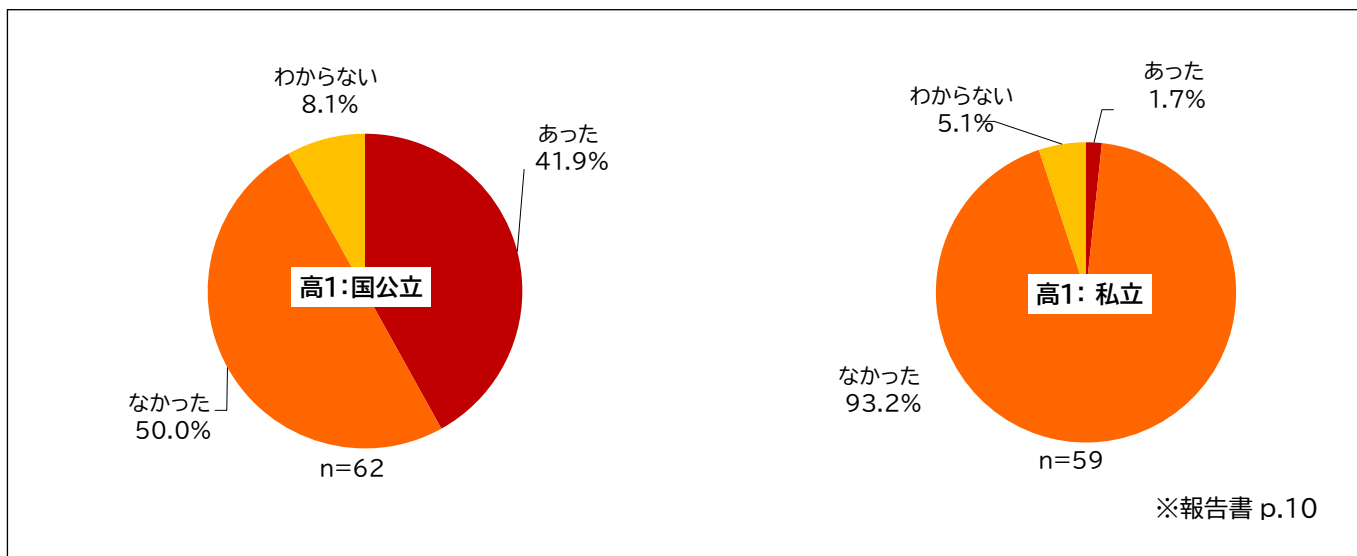
Q. 入学にあたって、パソコン・タブレットの購入・リースが必要でしたか。(保護者、単数回答)



※報告書 p.9

グラフ2

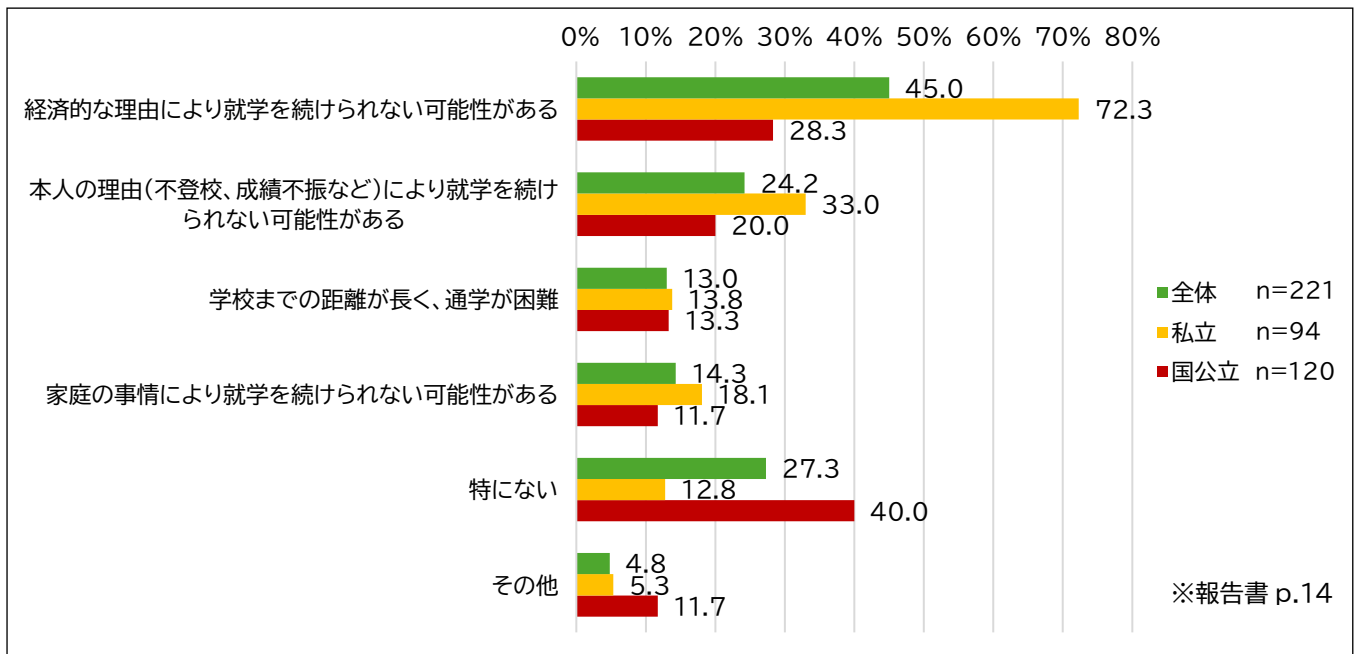
Q. パソコン・タブレットを購入する際に公的な補助金や助成金がありましたか。(保護者、単数回答)



※報告書 p.10

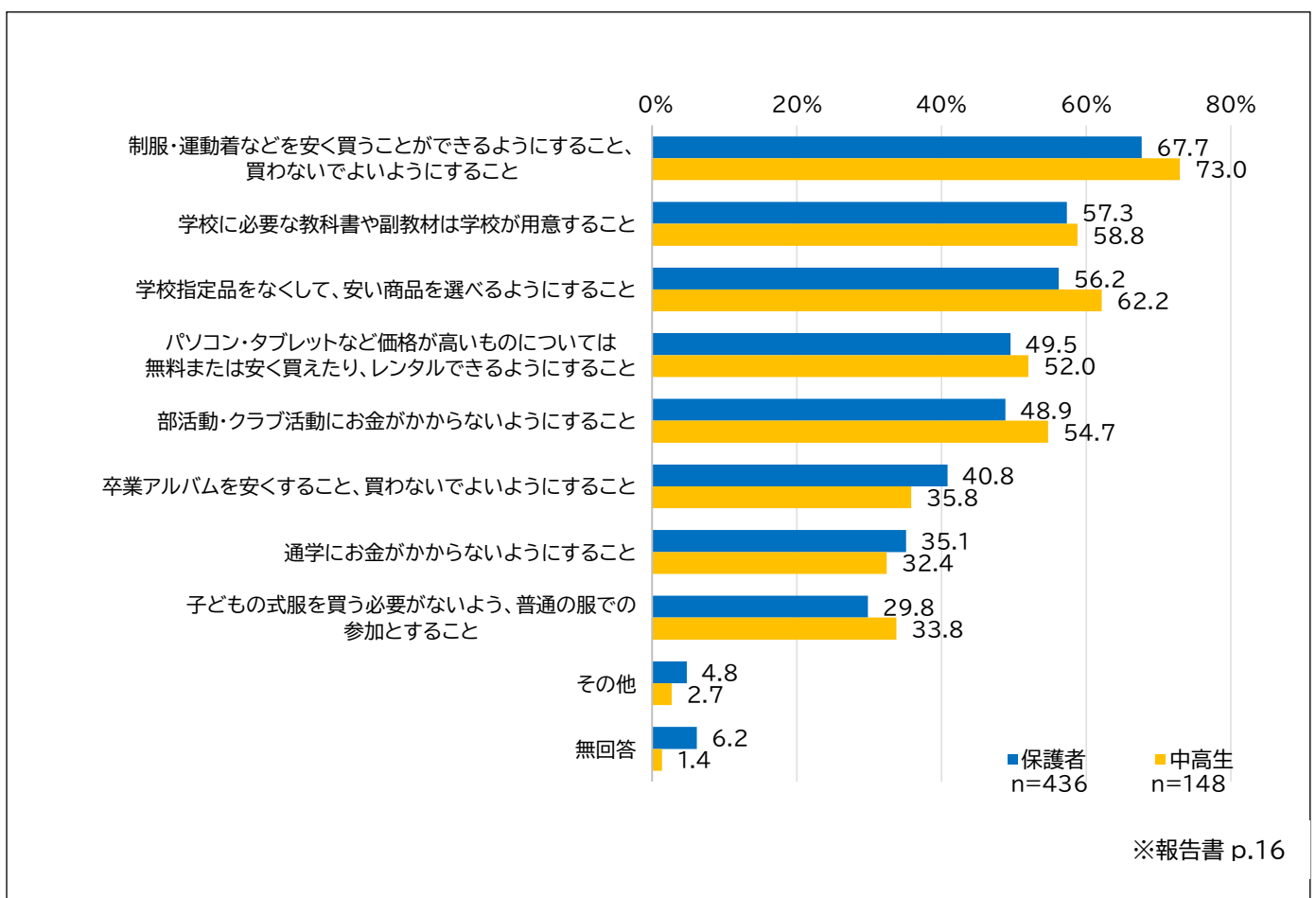
グラフ3

Q.入学時の心配事をすべて選んでください。(高1 保護者、複数回答)



グラフ4

Q. 卒業・新入学にかかる費用についてどんな支援が必要だと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。(中高生・保護者、複数回答)



<本調査結果を受けての国や関係省庁、自治体への提言について>

調査結果を受け、セーブ・ザ・チルドレンは、困難な状況にある子どもの“学ぶ権利”を保障するため、下記 5 点を国や関係省庁、自治体に対し提言していきます。

1. 就学援助や高校生奨学給付金など、授業料以外の費用に対する経済的支援の拡充
2. 学用品の備品化、購入品の選択肢の拡大、私費負担は援助額内に
3. 高校入学前の準備金の創設
4. 高校の授業料の立て替え払いの実態把握と、真に立て替えのない運用へ
5. 高校のパソコン・タブレット代の無償貸与・補助の都道府県ごとの詳細な実態把握

「経済的に困難な子育て世帯の中学・高校の就学費用負担に関する実態調査」概要

- 調査対象:セーブ・ザ・チルドレンが実施した「子ども給付金 ～新入学サポート 2025～」利用世帯
- 調査方法:利用世帯に対し、オンラインアンケートを案内し任意回答
- 調査機関:2025年8月1日～8月17日
- 有効回答数:保護者 436 人、中高生 148 人
- 調査協力:千葉工業大学 福嶋尚子准教授（調査票・報告書への助言、講評） 専門:教育行政学

セーブ・ザ・チルドレンの子ども支援事業 「子ども給付金 ～新入学サポート～」について

特定の生活上の困難があり、かつ経済的に困難な状況にある世帯で、当団体が定める申請条件を満たす世帯を対象に、中学・高校の入学に関わる費用の一部を支援しています(子ども 1 人につき、中学入学時 3 万円、高校入学時に 5 万円を給付、返還の必要なし)。

東北地域で就学支援のため 2016 年に開始し、2022 年からは対象地域を全国へ拡大。2022 年から 2025 年までに、のべ、3,640 人が同給付金を利用しています。



【詳細 URL】 <https://www.savechildren.or.jp/lp/kodomosupport2025/>

(※申請条件ほか詳細)

【取材のお申し込みや、本件に対する報道関係の方のお問い合わせ】

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報

TEL:03-6859-0355 E-mail: japan.press@savethechildren.org